

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191000019		
法人名	社会福祉法人こもれび会		
事業所名	グループホーム こでまり		
所在地	佐賀県佐賀市川副町大字福富828－1		
自己評価作成日	令和2年2月13日	評価結果市町村受理日	令和2年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和2年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一敷地内に小規模多機能ホームやデイサービス等があり、自由に行き来できる開放的な環境。合同の行事(バイキングや敬老会、忘年会、慰問見学等)も年間で多く開催している。また、地域行事にも参加しており、幼稚園・高校・他グループホーム等との交流もある。月に1回、読み聞かせボランティアで地域の方に来ていただいている。食事に関しては季節に応じた様々な彩りのある食事を提供。週3回は、入居者と職員が相談し、近所のスーパー等に材料の買出しに行き、作る事で食べたい物を食べたい時に提供できる様工夫している。平均要介護度が低い「一緒に」行動する機会を多く持ち、自立支援を常々心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県南東部の田園地帯の幹線道路沿いに位置し、近隣には大型の商店もある等買い物しやすく利便性に恵まれたホームである。隣には介護老人福祉施設、同一敷地内に居宅介護支援事業所、デイサービス、小規模多機能ホーム等が併設され、また母体の医療機関も隣接する等、交流も幅広く、居ながらにして地域との交流が図られるといった特色がある。併設の強みを活かし、グループホーム本来の目的であるところの、生活を共にし、「一緒に」行動することが実現されている。外出の機会も多く、ホーム内にとどまらず、地域とのつながりを維持しながら、入居者一人ひとりに寄り添う支援が実践されているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①法人の理念及びその年ごとの重点目標②地域密着型サービスとしての理念をリビングやスタッフルーム内に掲示することでいつでも意識・確認できる様にしている。	法人の理念、その年の重点目標、ホームとしての理念は朝礼時に毎日唱和されると共に、職員の目につく所に掲示され、自身のケアの振り返りの機会となっている。管理者を中心に、日々理念の実現に向けたケアの実践に努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や市報、職員からの情報等で知り得た地域のイベント等の行事に参加している。地域の幼稚園・高校・他施設との交流は以前はあったが、最近は減ってきている。食材の買出しで近所のスーパー等との継続的な関係性もある。同一敷地内のデイで知り合いと話す機会がある。	週3回の買物、地域の催しもの祭りへの参加、老人会への参加、デイサービス利用者との交流等が図られている。またホーム管理者が老人会で講話を行うなどの機会も持たれている。しかし、これまでであった幼稚園や高校、他法人との交流が減ってくる等、ホームとしての地域との継続的な関わりが課題となってきている。	グループホームとの交流等が、地域の資源として認知され、交流が継続的に広がっていくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のサロンや老人会等に出向き、介護保険や認知症についての講話、自宅で出来る体操等を行ったり、施設見学に来てもらう等の地域貢献を行っている。また、定期的に職員が地区の町づくり協議会やウォーキングに参加している。昨年度より認知症カフェを開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状の課題や経過、入居者の状況、行事等の報告は毎回行っている。その中で年に1回は入居者と委員の方々の食事会を行っており、食事作りや食事の様子を見て頂くことでより身近に感じてもらい、意見を出しやすい環境作りに努めている。	2ヶ月に1回開催され、家族、民生委員、老人会代表、社会福祉協議会、包括支援センターからの出席がある。ホーム行事や活動等の報告、地域行事の情報交換、意見交換等が行われている。議事録はまとめられ、何時でも誰でも見られるよう玄関に掲示されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者からの入居者状況についての問い合わせには毎月回答している。また、日々のケアを行う上での問題点や運営・給付管理のこと等、疑問点があれば、随時相談している。	市町担当者とは入居状況等への対応報告、日々の運営やケアに関しての疑問点・問題点に関する相談等、日頃から協力関係の構築に努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての勉強会を開催している。また、委員会の資料も職員が常日頃から確認できる場所に保管している。また、日中は玄関等の施錠はしておらず、自由に入出りできる様にしている。同一敷地内にある他サービス提供事業所への行き来も自由に出来る様になっている。	現状玄関の鍵の施錠を含め、身体拘束はない。法人全体での勉強会、研修、ホームでのミーティング等を通し、身体拘束とは何か、身体拘束がもたらす弊害とは何か等々について理解し、防止に努められている。特に接遇に力をいれ、言葉による制限、スピーチロックをうまないよう、管理者を中心に日々のケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全事業所にてそれぞれ検討した虐待と思われる行為とその解決策をマニュアルとして職員が常日頃から確認できる場所に保管している。また、法人全体での勉強会にて職員が虐待について正しく認識し、防止に努めている。今年度は虐待の目チェックリストを全職員が行った。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や一部の職員は権利擁護に関する制度について理解出来ているが、大半の職員は理解不十分であるため、勉強会等で学ぶ機会を設ける必要があるが、実施できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金や損害賠償、守秘義務等その他同意書は別紙も作成し、より詳しく説明している。疑問点があれば契約時のみならずいつでも回答している。また、法改定時は随時、契約書等を作成し直し、再度同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や日頃の面会時にご家族から意見を頂くよう努めている。また、玄関には意見箱を設置し、記入できる様にしている。職員の名前と顔写真を玄関に張り出すことで職員を身近に感じてもらい、意見や要望を言いやすい環境作りに努めている。	入居者からは日々の関わりの中で、家族からは面会時を中心に、意見や要望を聞き取るよう努められている。アンケート等も実施されており、聞き取った意見要望はできる範囲の中で、運営に活かすよう努められている。日頃の家族との関係作りの中で、意見を言い易い環境作りにも工夫されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年、人事考課面接を実施。個別で面談し、職員の率直な意見や提案を聞き、可能な限り反映出来る様努めている。また、ミーティング等を通して意見や提案を出し合い、反映出来る様努めている。その他、管理者は職員から相談しやすい雰囲気作りに努めている。	ミーティング時や人事考課の個別での面談等で、職員からの福利厚生面を含めた意見要望を聞き取り、運営に活かすことができる事については、反映するよう努められている。日々の業務の中でも、気になる事があれば、気軽に相談できる関係作りにも努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課面接を通して職員の思いや悩み等の把握に努め、向上心を持って働ける様働きかけている。また、研修会への参加の機会を設けたり、資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に関しての講習会や法人内の勉強会等積極的に参加する様働きかけを行っている。また、外部研修に出来るだけ多くの職員が参加出来る様支援している。外部研修に参加した職員はミーティングの場などで報告してもらい、他職員へも還元してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修等に参加したり、町のネットワーク研修会(月1回)に参加することで同業者との交流の機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴、生活状態、本人の状態、困っている事等多岐にわたる情報を入居申し込みの段階から把握。入居時にはさらに詳しい情報収集をすることで安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込の段階から困っていること、要望等の把握に努めている。また、待機期間中も定期的に連絡することで信頼関係を築き、スムーズに入居できる様努め、契約時には改めて要望等の確認を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込の段階で状況の把握に努め、本人・家族の状況を勘案し、他のサービスが適切であると思われた場合は検討し、速やかにサービスの移行のアドバイスをを行うことに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の特技や要望を見極め、活躍の場が持てる様な関わりを意識して行っている。また、出来る限り一人ひとりの思いを受け止め、共感・尊重する様に努めている。人生の先輩である入居者の方々に生活のあらゆる場面で色々教えていただくことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ブログの更新や定期的な便り等を通して状況をお伝えしている。また、BD家族食事を開催したり、定期受診は基本、ご家族同行で行ってもらう等、絆が途切れない様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	食材の買出しで以前からの馴染みの店に行ったり、地域の祭り等の行事に出掛けることで馴染みの人や場所との関係が途切れない様努めている。同一敷地内にあるデイサービス利用の知り合いと会う機会を設けている。	家族の協力のもと、親戚の集まり、墓参り、葬祭への参加の支援が行われている。また馴染みの美容室の利用や、もともとの住まいの友人との関係の継続、地域の祭りへの参加、ドライブ等、馴染みの関係の継続に向けた支援に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が出来ない部分をカバーし合っている場面ではあえて手を出さず、良い関係性の中で生活できる様支援している。口喧嘩になったりと、入居者同士の相性の良し悪しはあるが、その中で孤立したり、関係性が悪化しない様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態の変化に伴うサービス形態の変更時も変更後のサービス事業所と連携を図る等継続的な関わりに努めている。入院加療のため契約が終了した後もその後の連絡を頂き、必要に応じてフォローをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご家族より昔のエピソードや好みの事などの聞き取りを行っている。入居後も日々のコミュニケーションの中で出てくる思いや希望を可能な限り汲み取れる様努力している。	入居時や面会時に家族から情報を収集すると共に、思いを言葉にして言える方に対しては、聞き取り方を工夫し、その把握に努められている。把握した情報は職員全体で共有し、入居者本人を中心に、場面場面で思いの実現に向け検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込みの段階からの聞き取り(フェースシート)によりこれまでの経緯の把握に努めている。また、入居時にご家族より昔のエピソードや好みの事などの聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のケース記録に一人ひとりの過ごし方を出来るだけ詳細に記入する様努めている。また、状態の変化や新たな要望等により発生したケア内容の変更は申し送りやミーティングの場を通して全職員へ周知している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの様子やケース記録、支援経過等をもとに担当者会議を行い、ケアのあり方について検討している。会議に参加できない職員からは事前に情報を収集するよう努めている。	入居者本人や家族の希望、職員からの情報をもとに、計画が立案され、担当者会議を経て、介護計画が交付されている。定期及び随時の見直しも実施され、入居者の現状に応じた介護計画が作成され、職員全体で共有されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの样子のケース記録と別にプラン内容の特記すべき内容の記録を残しており、介護計画の評価や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節や天候の良い日には、近所を散歩したり、近くの直売店に歩いて買い物に行ったり、2ヶ月に1度の飲食店で外食は希望を聞く等その都度生まれるニーズに可能な限り応える様努めている。また、遠方から来られるご家族には必要であれば、食事や寝具の提供も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や季節の催しものへ出掛けたり、食材の買出しは地元の馴染みのスーパーや直売店に行く等地域の社会資源と協働している。また、地域の幼稚園や児童館、高校や他施設との交流も定期的に設けていたが、最近は少なくなった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に際して当GHの協力医療機関への変更を希望される場合は紹介を行っている。定期受診はご家族と共に行って頂いているが、状態変化が著しい場合や急病の場合は看護師等が同行する。また、主治医より他科受診の指示があった場合は、該当病院と連携を図っている。	入居時に説明がなされ、協力医療機関やもともとのかかりつけ医のもとで、適切な医療が受けられるよう配慮されている。受診は家族対応であるが、状況に応じホーム側での支援も行われ、主治医、家族、ホームとの連携が図られ、医療情報の共有に努められている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の小規模多機能ホームの看護師に協力を得ている。非常時は同一敷地内の通所介護の看護師に協力を仰いでいる。些細な変化も看護師に報告し、看護師を中心に入居者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入院先病院へ添書提供。最低でも1週間に1回は病院へ訪問し、病棟看護師やMSWより状況を聞き取ったり、Drの家族説明時等は立合いを行う。また、家族とも密に状況を確認しあい、退院支援に努めている。町内の病院関係者とはネットワークがあり、常日頃より意見交換を行い場がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針についての説明を行い、同意を得ている。重度化した場合、当法人の方針として特養のショートステイや入所へのサービス移行を行っているが、そのことは契約時より説明し、理解を得ている。入居後、上記移行が必要な状態になる様であれば、早めにご家族との話し合いの場を設けている。	重度化した場合のホームの指針が入居時に説明され、同意もとられている。特別養護老人ホームが併設されており、住まいのすみわけといった視点に立ち、重度化した場合は、家族、主治医と早めに話し合いの機会を持ち、納得した上で、ショートステイから入所へとスムーズな移行ができるよう支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体で行う全体会で救急法(心肺蘇生法、AED)についての演習や酸素ボンベの使用方法等の勉強会、Drによる高齢者に多い疾患や応急処置等についての講義等を行い、実践に備えている。その他緊急時マニュアルを作成し、全職員が閲覧できる場所に保管している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時のマニュアルと備蓄がある。火災に関しては年に2回、消防署立合いのもと入居者、職員で防災訓練を実施し、防災機器の操作手順、避難誘導の手順、別棟特養、協力病院からの協力体制の確認を行っている。運営推進会議の中でも火災時の避難訓練を行っている。	避難訓練は年2回、夜間想定を含めて実施されている。その他の災害についてもマニュアルが作成され、職員も把握している。川副ネットワークの防災マニュアルに沿い、他施設との訓練も実施されている。大雨に関するマニュアルについては作成中である。	消防団との関りも出てきたとのことであり、消防団も含めた、地域との更なる協力体制構築を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した関わりを持つ様、常日頃より管理者が職員へ指導を行っている。また、職員お互いが言葉掛けの仕方等でおかしいと感じた時は提言し合えるよう心掛けている。個人情報鍵付きの部屋で管理している。	接遇には力を入れ、研修会や日々のミーティング等を通し、管理者を中心に入居者の尊厳を尊重したケアに努められている。気なる事があればその都度注意を促し、プライバシーに配慮した対応や言葉かけに努められている。書類等個人情報に関しては、鍵付きの部屋で管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食材の買出しの前に「今日は何を食べたいか」を聞いたり、季節の外出行事や外食等の行先を入居者と相談したりと日々の生活の中で思いや希望に選択肢が持てるよう努めている。また、可能な限り選択の余地がある様な聞き方になるよう常日頃から接遇の指導をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「待つ姿勢」を職員全員が身につけることが出来る様常日頃から指導している。食事に関しては必ずしも全員揃わなくても、提供し、遅めに摂られる方もおられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り入浴前に衣類と一緒に選ぶ様にしている。毎月1回、外部から理・美容師に来てもらい、好みの髪型にカットしてもらっている。馴染みの美容室がある方は家族と共に通っておられる。敬老会等の行事の際や外出時は好みに応じて化粧も楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできる事に応じて、買い物、調理、配膳、下膳、食器洗い等を行っている。週3回はその時に食べたい物を聞き、メニュー考え、買出しに行き、一緒に作っている。また、外食や月1回の季節ご膳、バイキング等を実施し、様々な場面で食事が楽しみとなるように努めている。	食事の一連の流れの中で、入居者の状態に応じた活躍の場が設けられている。2ヶ月に1度の外食や誕生月には家族とのバースデー食事会も設けられ、様々な場面で食事が楽しみなものとなるよう職員全体で工夫されている。食事の際は家庭から持参された、使い慣れた湯飲みや茶わんが使用されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士との連携にて量や栄養バランス等の支援を行っている。食事量はその時の体調や気分に応じて臨機応変に対応。食事量、水分量は記録に残すことで変化を把握し、体調面の管理を行っている。嗜好品に関しては事前に確認し、食事形態も随時見直している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、実施してもらっている。その方の状態に応じた介助方法を選択し、残存能力の維持にも努めている。歯科との連携も図れており、必要時の受診、口腔ケアの方法等指示を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けや誘導が必要な方は排泄表を確認しながらトイレへ案内し、介助を行っている。排泄後の陰部拭き取りや流し等も可能な限り自力で行ってもらい、過剰な介護にならない様努めている。排便の把握、下剤の調整が必要な方はDrの指示に従い、調整している。	排泄チェック表により排泄のパターンを把握し、声の大きさや表現を工夫し、自尊心を傷つけないような声かけ、見守りが行われている。自立の入居者が多く、入居者の力を尊重し、必要な時に必要な支援ができるよう配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は、主治医の指示で内服薬服用。必要に応じては頓服で緩下剤を使用し、排便コントロールしている。また、排便間隔を把握し、便秘気味の方には牛乳や飲むヨーグルトを勧め、散歩を勧めたりと生活面でのアプローチにも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回程のペースで入浴されている。時々、入浴剤を使用することで、いつもとは違う雰囲気を楽しんで頂いている。入浴が好きな方は時間をかけ、ゆっくりと入浴している。入浴を好まない方が多く、支援に苦慮しているが、出来る限り強制的にならない様努めている。	入浴は毎日準備され、入居者それぞれ2日に1回程度で入浴が実施されている。しょうぶ湯やゆず湯等季節の楽しみを取り入れたり、入居者の希望に応じたタイミングや時間をかける等、入浴が楽しみなものとなるよう工夫されている。拒否傾向が強い入居者に対しても無理強いせず、個々にそった支援に努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝付けない時は、個別で話を聞いたり、温かい飲み物を提供したりとその時々に合わせて対応に努めている。朝は職員の都合で無理に起こしたり等をしない様努めている。また、寒暖の時期は早目にエアコンを入れ、快適に休める様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品の直近の物をファイリングし、全職員がすぐに閲覧できる場所に保管している。また、内服薬の変更があった場合は、その理由も含め、申し送りにて職員間の情報共有を図っている。服薬間違いがないよう、確認作業を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの個性や特技が活かせる様努めている。女性は家事、男性は力仕事、細かい作業が得意な方は創作活動等、その方々の役割を見出し、活躍の場が持てる様努めている。また、誕生日にはご家族と一緒に祝い出来る機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの花見や地域の催しごと、日常的な散歩や買い物等は積極的に行っている。外食は、昔行っていた所等をリサーチし、行き先を決めている。	買い物、散歩、ドライブ等で毎日1回は外に出る機会を持ち、戸外に出かける楽しみと筋力が維持できるよう工夫されている。また、入居者の希望や生活歴を把握した上で行き先を決め、季節の楽しみとしての花見、外食、スポーツセンターでの催し、地域の祭りの見学等積極的に出かける機会を持たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材の買い出しや外食時等の支払いはお任せしている。個人のお金を預かり、買出し時等に日用品を購入される方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族から手紙がきたり、入居者が親戚等に年賀状を送ったり等関係性が疎遠にならない様努めている。また、希望に応じて電話にてご家族とやりとりされる方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、装飾品を入居者と一緒に作り、リビング内においても季節の変わり目を感じて頂けるよう工夫している。季節によっては加湿器の使用や換気の徹底等を行い、快適な空間で過ごしていただけるよう努めている。最低でも週に1回は居室の掃除・リネンのシーツ交換を行っている。	共用の空間は、照明・空調・職員の声の大きさにも気をつける等、入居者の混乱を招くことが無いよう配慮されている。また、居ながらにして季節を感じられるよう、入居者と季節ごとに作る壁飾りや生花等が飾られ、明るく広いスペースを有効に活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士、逆にあまり気が合わない入居者同士等の入居者間での人間関係にも配慮し、食事の座席や家具の模様替え等を行っている。一人で過ごしている入居者には気がけて職員が声をかける様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みや馴染みの物の持ち込みを本人、家族に勧め、自分らしい空間作りに努めている。備え付けの家具や洋服掛けも充実している。居室によってはソファや加湿器を持参される等個性が出てきているが個人差はある。	入居者それぞれの好みの物、こだわりの物等が持ち込まれ、それぞれのライフスタイルに応じた空間作りを工夫されている。また、入居者本人や家族と相談しながら、本人の動線に沿った家具の配置等、安全面にも配慮された安心できる居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗剤等は鍵付きの部屋で管理し、安心して生活できるように配慮しながらも一般の家庭と変わらない様な雰囲気をつくる様心掛けています。		